

2023 第2回 京大本番レベル模試 (理系)

採点基準

■現代文 採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文(章)の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 得点箇所漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の欠落等については、一つごとに1点減点する。尚、同一の誤字、送り仮名の誤りの繰り返しについては、1点だけの減点でよい。

□ 現代文 40点

問一 12点

■形式上の不備

- ・文末表現は要素G参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A〇2点

B〇2点

C〇2点

D〇1点

他人と関わることもなく、建設的なこともできずにぼうつと無駄な時間を過ごし、孤独感に襲われて

F〇3点

自分の存在意義さえ希薄に感じられた時、それは新たな自己と世界が生成する前触れなのだと思ひ直すことができたから。(12点)

■要素A「他人と関わることもなく」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。「自分の殻に閉じこもり」でも〇
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「建設的なこともできずに」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「ぼうつと無駄な時間を過ごし」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「孤独感に襲われて」…1点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。「誰からの連絡もなく」でも〇

■要素E「自分の存在意義さえ希薄に感じられた時」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素F 「新たな自己と世界が生成する前触れなのだと思いき直すことができた」…3点
- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。「顕在的な変化をもたらす前の準備期間なのだ」と公的に捉えることができたから。」でも○。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素G 「…から・ので・ため」といった文末表現が原則。理由説明答案として不適切であると判断される場合はマイナス1点。

問二 8点

- 形式上の不備

- ・ 文末表現は要素D参照

- 模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A○3点

B○2点

未体験の人間関係、生活の場や環境にチャレンジすることによって、自己と世界との間に未知の交流や連携が生まれ、心身を構成していた要素とその構成が変化してゆく。

(8点)

C○3点

- 要素A 「未体験の人間関係、生活の場や環境にチャレンジする」…3点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「人間関係」「生活の場や環境」のいずれかに相当する説明を一つ欠く場合は2点。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素B 「自己と世界との間に未知の交流や連携が生まれ」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。「異質なものが自分の中に入り込む&自分から出ていき、つながりが生まれ」などでも○。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素C 「心身を構成していた要素とその構成が変化していく」…3点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 変化するものとして、「自分自身」でも可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素D 「…(という)こと」という文末表現が原則。不適切な文末表現であると判断される場合はマイナス1点。

問三 8点

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A ○2点

B ○2点

C ○2点

米国留学中に医療人類学を学んだ筆者は、医学や医療の営みを外部から観察する視点を獲得し、臨床医療への

D ○2点

の違和感や疑問を克服すべく研究者へと方向転換したということ。(8点)

■要素A 「米国留学中に医療人類学を学んだ」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B 「医学や医療の営みを外部から観察する視点を獲得し」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C 「臨床医療への違和感や疑問を克服すべく」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D 「研究者へと方向転換した」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 「…(という)こと」という文末表現が原則。不適切な文末表現であると判断される場合はマイナス1点。

問四 12点

■形式上の不備

- ・文末表現は要素F参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A ○2点

B ○2点

C ○3点

世界には変化するものと変化しないものが共存し、異質な人間や事物同士が閉じながら開かれている状態でクロスしつつ、人間の感性が合流と離散を繰り返すことで、新たな世界や自己、意味が生成してくると考

D ○2点

E ○3点

えられるから。

■要素A「世界には変化するものと変化しないものが共存し」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「異質な人間や事物同士が」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「閉じながら開かれている状態でクロスしつつ」…3点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「クロスしつつ」に相当する説明を欠く場合は2点。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「人間の感性が合流と離散を繰り返す」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「新たな世界や自己、意味が生成してくると考えられる」…3点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「世界」「自己」「意味」をそれぞれ1点とし、一つ欠くことにマイナス1点。
- ・ 全体として説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F 「…から…ので…ため」といった文末表現が原則。理由説明答案として不適切であると判断される場合はマイナス1点。

二 現代文 30点

問一 10点

- 問題8ページ、4行目の内容を説明する問題
- 形式上の不備
 - ・ 文末表現…不問
 - ・ 句点の扱い…不問

■ 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A○2点

B○4点

C○4点

学生生活を顧みると、学生時代の正規の教程は、直接役に立つものとは思われないが、それなしには学生生活を始めることも続けることもできなかったと思われたから。 (10点)

- 採点方法…単独採点
- 字数…不問

■ 要素A 学生生活を顧みると思われたから…2点

- ・ 「三十年の学生生活を振りかえると、そのように思われる」ことの説明ができていないこと
- ・ 単に「三十年」とだけしており、「学生生活」と同意の表現のないものは1点減点

■ 要素B 学生時代の正規の教程は、直接役に立つものとは思われない…4点

- ・ 「学生時代に学校の正課を正直に勉強することは、その後の学生生活に直接役立つものではないと思われる(Or骨身に沁みて生涯の指導原理になっているとは思われない)」ことの説明ができていないこと
- ・ 「直接役に立つものではない」とだけしており、「直接役に立つことは少ないと思いついて(Orそんな気になって)」という表現のないものは2点減点
- ・ 同意例「教程以外に直接先生方から受けた実例教育のほかに自分の勝手に自修したことだけが骨身に沁みて生涯の指導原理になっているような気がする」など

■ 要素C それなしには学生生活を始めることも続けることもできなかった…4点

- ・ 「(しかし結局は)学校の正課を正直に勉強することなしには、学生生活を始め、継続することはできない(Or知らず知らずに、学生生活を始め、継続するための基礎的な力になっている)」ことの説明ができていないこと

問二 10点

- 問題8ページ、8行目の内容を説明する問題
- 形式上の不備
 - ・ 文末表現…不問
 - ・ 句点の扱い…不問

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A〇5点

B〇5点

自分たちは年若く柔軟で、凝り固まった考えも持たなかったのが、寝食を忘れて一心不乱に研究に没頭する
先生方や諸先輩方の姿に、強く影響されたということ。(10点)

■採点方法…単独採点

■字数…不問

■要素A 自分たちは年若く柔軟で、凝り固まった考えも持たなかったので…5点

・「(当時の筆者たちは)年が若く、凝り固まった考えというものを持たなかったので、柔軟な考えを持つことができた」ことの説明ができていないこと

■要素B 寝食を忘れて一心不乱に研究に没頭する先生方や諸先輩方の姿に、強く影響された…5点

・「先生方や諸先輩方の寝食を忘れて一心不乱に研究に没頭する姿に強い影響を受けた」ことの説明ができていないこと。

・「強く影響された」と同趣旨の表現のないものは不可。

問三 10点

■問題9 ページ、14行目の内容を説明する問題

■形式上の不備

- ・文末表現…不問
- ・句点の扱い…不問

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A〇2点

B〇4点

これまでの三十年間の学究生活を振りかえると、正常の教程科目から外れて、自分勝手に自修したもののす
べてが、その後の自身の学究生活の目標として体の中にしみとおるほどに強く作用していると感じられると
いうこと。(10点)

C〇4点

A(後半)〇

■採点方法…単独採点

■字数…不問

■要素A これまでの三十年間の学究生活を振りかえると感じられる…2点

・「これまでの三十年間の学究生活を振りかえって分かった」ことの説明ができていないこと

■要素B 正常の教程科目から外れて、自分勝手に自修したもののすべてが…4点

・「正常の教程科目ではなく、自分勝手に自修したもの(or手当り次第にあらゆる書物をつっぱり出し

てあてもなく好奇心を満足しそうなものを物色した経験）である「ことの説明ができていること

・「すべて」と同意の表現のないものは1点減点。

■要素C その後の自身の学究生活の目標として体の中にしみとおるほどに強く作用している…4点

・「(自分勝手に自修したものですが)学究生活の指針として体の中にしみとおるほどに強く作用している(or骨身に沁みて生涯の指導原理となっている)」「ことの説明ができていること」

・単に「影響している」とだけして「強い(骨身に沁みて)」と同意の表現のないものは2点減点。

※内容説明の設問では、末尾の句点がないものは1点減点。ただし、現代語訳の設問では、文末の句読点は無問。

問一 (10点)

【模範解答】

A〇2点	B前半	C〇2点	D〇2点
まだ初心者の段階なのに、もしも「表現は古典的な素材を用いても、情感は今までになかったものにした」「 B〇2点 E〇2点 などと思うのなら、さっぱり和歌は生まれ出ないであろう。」			

■採点のポイント

- A～Eの各配点部分の中の、加点要素が揃っていれば、それぞれの配点を加点する。
- 加点要素が答案の中に表記されており、A～Eの各配点部分の中で構成要素として機能していれば、重複して記述されていなくてもよい。

■各加点要素の加点の条件

A 「まだ初心者の段階なのに」(2点)

※ 「初心のうちに」の解釈

加点ポイント

まだ初心者(の段階)なのに

B 「もしも……などと思うのなら」(2点)

※ 『…』と思はば「」の解釈。

- 「思はば」を順接仮定条件で訳すこと。

加点ポイント

もしも……など思うのなら、

C 「表現は古典的な素材を用いても」(2点)

※ 「詞は旧きを以て」の解釈

- 「詞」を「表現／素材／語彙／言語表現／表現形式」ととること。
- 「以て」を「使って／用いて／使用して」ととること。逆接「…でも／いながら／けれど」でも単純接続「…て／ていて」でもよい。

加点ポイント

表現（＝素材／語彙／言語表現／表現形式）は古典的な素材を用いても

D 「情感は今までになかったものにしたがいたい」(2点)

※ 「情はあたらしくせん」の解釈。

- 「あたらしく一す」を「斬新な（＝進取・新鮮・今までになかった）ものにする」ととること。
- 助動詞「む」を「意志」とすること。

加点ポイント

情感（＝情趣／風情／表現内容）は今までになかったものにしたがいたい

E さつぱり和歌は生まれ出てこないでしよう」(2点)

※ 「一向、歌は出で来べからず」の解釈。

- 「一向…ず」を「全く（＝決して・絶対に・さつぱり）…ない」ととること。
- 助動詞「べからず」を「打消推量」とすること。
- 現代語訳なので、引用符合（「」）や句点（。）はなくてもよい。
- 地の文に「侍り」が使われているので、丁寧語の表現「…です／ます」はあってもよいし、なくてもよい。

加点ポイント

さつぱり（全く／決して／絶対に）（和）歌は生まれ出てこないだろう（＝でしよう）

問二 (10点)

【模範解答】

A 〇2点

B 〇3点

C 〇3点

『類題和歌集』を参照して、出題された歌題に関連する項目をすべて読んで味わいながら、その作業過程の途上で自作の和歌を作り出すという、逐一具体的に指導する方法。

D 〇2点

■採点のポイント

- A～Dの各配点部分の中の、加点要素が揃っていれば、それぞれの配点を加点する。
- 加点要素が答案の中に表記されており、A～Cの各配点部分の中で構成要素として機能していれば、重複して記述されていなくてもよい。

■各加点要素の加点の条件

A 『類題和歌集』を参照して」(2点)

※「その題の一部」の解釈

- 「注」に「類題の…／花の一部」の解説があるので、『類題和歌集』を参照」という要素は必須。

加点ポイント

『類題和歌集』を参照して

○2点例

- 『類題和歌集』(を参照して)
- 『類題和歌集』に掲載されている(、出題された歌題に関連する)項目(を参照して)
- (出題された歌題に関連する)『類題和歌集』所載の項目

B 「出題された歌題に関連する項目をすべて読んで味わいながら」(3点)

※「その題の一部を読み吟じて」の解釈

- ▲「吟ず」の意味「味わい(＝吟詠する／朗誦する／声にあげて読み上げる)」がないものは△1点(＝▲減点2点)とする。

加点ポイント

(出題された)歌題(に関連する項目)の歌をすべて読んで味わい(＝吟詠する／朗誦する／声にあげて読み上げる)ながら

○3点例

- 歌題の歌をすべて読んで吟詠して
- 歌題項目の歌全部を、声にあげて読み上げながら
- 歌題の歌を全部朗誦しては

C 「その作業過程の途上で自作の和歌を作り出す」(3点)

※「その内にて詠み出だすべき」の解釈。

- 「その内にて」を「Bで述べた作業過程の途上で」というふうに記述されていればよい。
- ▲次のDの要素がない答案でCが文末の場合、「…こと。／…方法。」等となっていない答案は▲減点1点。

加点ポイント

その作業過程（＝出題された歌題に関連する『類聚和歌集』にある、項目の歌をすべてを読む）の途上で（自作の／新しい）和歌を作り出す

○3点例

- そのように（＝『類聚和歌集』にある項目の歌をすべてを読む）しているうちに、自分の和歌を詠み出す。
- その（『類聚和歌集』にある項目の歌をすべてを読む）間に、新しい和歌を詠み出す。
- そのこと（＝『類聚和歌集』にある項目の歌をすべてを読むこと）を通じて、自作の和歌を作り出す。

D 「逐一具体的に指導する方法」（2点）

※「いにしへは、かやうの教へはなく侍れど、今の世の人、いにしへのごとくにては、初学の輩、すすみがたかるべし」の解釈。

- 「いにしへは、かやうの教へはなく」とあるのだから、A～Cまでの要素は、筆者が新しく開発した指導方法であると強調している。よって、A～Cまでの要素を総合した指導方法が「かやうの教へ」であり、その特徴（＝放任ではなく、「逐一具体的な指導法」である等）を要約しなければならない。
- ▲「どのようなことを言っているのか」と問われているので、文末は「…こと。／…方法。／…指導（方法）」等とする。そうではない答えは▲減点1点。

加点ポイント

（学習者任せではなく）逐一具体的に指導すること（方法／指導法）。

問三 （10点）

【模範解答】

A○3点	B○2点	C○4点
盛りの時に見た桜花が散るのを惜しんでいると、その梢から花びらが風に舞い散って、庭を吹く春風がだんだんと桜色に移り変わってゆくよ。		

■採点のポイント

- この和歌は倒置法が用いられているが、語順通りに現代語訳しても、倒置を正して現代語訳してもよい。
- 解答欄が4行あるので、解答の文が複数（2文以上）になってもよい。
- A～Cの各配点部分の中の、それぞれ加点要素が揃っていれば、それぞれの配点を加点する。
- 加点要素が答案の中に表記されており、A～Cの各配点部分の中で構成要素として機能していれば、重複して記述されていなくてもよい。

■各加点要素の加点の条件

- A 「盛りの時に見た桜花が散るのを惜しんでいる」(3点)
※ 「見し花の惜しむ」の解釈

加点ポイント

(私が) 盛りの時に見た桜花が 散るのを 惜しんでいる

- B 「その梢から花びらが風に舞い散って」(3点)

※ 「梢はうつろひて」の解釈

○ 「この「うつろふ」は「桜の花が」散る」の意味である。

加点ポイント

その梢から (／) の 花 (びら) が (風に舞い) 散って

- C 「庭を吹く春風がだんだんと桜色に移り変わってゆくよ」(4点)

※ 「うつろひて色になりゆく庭の春風」の解釈

○ この「うつろふ」は「色が」変わる」の意味である。

▲ 本歌取りを考えると、「しだいに：色に移り変わってゆく」という表現は必要なのだが、今回は「しだいに／だんだんと／日ごとに」等の表現がない答案に対しては▲減点1点とする。

○ 和歌の解釈なので、敬語表現であってもよい(もちろんなくてもよい)。

○ 現代語訳なので、引用符合(「」や句点。)はなくてもよい。

加点ポイント

庭の (を吹く) 春風が だんだんと (しだいに) 桜色 (桜の色／薄紅色／白く) に 移り変わってゆくよ。

以上